

経済建設常任委員会行政視察報告書

1. 視察期間 令和6年1月23日(火)～25日(木)

2. 視 察 地 (1)岡山県笠岡市

農福連携について

(2)岡山県井原市

井原市地域農産物総合交流センター（葡萄浪漫館）について

(3)広島県尾道市

尾道ブランド農産物認証制度について

(1) 農福連携事業について 岡山県笠岡市

①視察地の選定理由

笠岡市では「儲かる農業」を目指して、「担い手の育成」、「ブランド化」、「6次産業化」を推進しています。その活動の中で、「農福連携」により障害者の就労機会の拡大や賃金アップを目指しながら農業での担い手の確保、人手不足の解消につなげており、このことが農業経営の安定、経営規模の拡大に大きく寄与しています。

本市でもイチゴの「やよい姫」をブランド産地化するべく事業を進めていますが、「農業従事者確保」の一つのモデルケースとして今後の参考とするため、先進地である笠岡市を視察先として選定しました。

②市の概要

笠岡市は岡山県の南西部に位置し、西側は広島県福山市と接しています。温暖で雨が少なく、平野が少ないため「水と土地を求めて」の歴史でした。

土地については干拓や埋め立てを行って確保してきました。平成2年3月には、広大な笠岡湾干拓地（1,811ha）が完成し、畜産、野菜の露地栽培、花きなどの施設栽培が大規模に行われています。

水については、市内に大きな川もなく、慢性的な水不足に悩まされてきました。しかし、笠岡湾干拓地の用水を確保するため、昭和 47 年には倉敷市を流れる高梁川からの導水が実現し、今日まで島しょ部を含む市内全域へ水道水が供給されています。

観光面においては、瀬戸内海国立公園の一角をなす風光明媚な笠岡諸島を有しています。笠岡諸島には「白石踊」の「白石島」、靖国神社の大鳥居などに使用されている「北木石」の「北木島」、「走り神輿」の「真鍋島」など七つの有人島があります。このうち白石島の「白石踊」を含む「風流踊」は令和 4 年 11 月 30 日に、モロッコの首都ラバトで開催されたユネスコの無形文化遺産保護条例第 17 回政府間委員会において登録が決定されました。また、日本銀行本店本館などの西洋建築や近世城郭の代表である大阪城の石垣など長きにわたり日本の建築文化を支えてきた笠岡諸島を含む瀬戸内備讃諸島の花崗岩と石切り技術などの文化・伝統について「知ってる！？悠久の時間が流れる石の島」が日本遺産に登録されました。その他「カブトガニ繁殖地」が天然記念物として指定されており、カブトガニ博物館ではカブトガニに関する展示はもちろん、その研究も行われています。また、笠岡市出身で、文化勲章を受章した日本画家小野竹喬を顕彰する竹喬美術館があります。

予算規模（令和 5 年度）

一般会計 250 億円、特別会計 121 億円、企業会計 78 億円（合計 450 億円）

③視察研修内容

岡山県内には 363 か所（2020 年岡山県調べ）の福祉サービス事業所（就労継続支援事業所）があり、そのなかで農業に取り組んでいる事業所は 71 か所となっています。その内訳は、農業に取り組んでいる就労継続支援 A 型事業所が 35 か所、施設外就労として農作業に従事している就労継続支援 B 型事業所が 36 か所です。

A 型事業所・・・雇用形態を締結して就労の機会、その他日常生活上の支援を提供。

B 型事業所・・・雇用契約によらない就労の機会、その他日常生活上の支援を提供。

農福連携の取り組みでは、施設の利用者にとって心身のリフレッシュや生活のリズムを安定させる効果があるとともに、事業所の就労機会の拡大や工賃（賃金）アップにつながるねらいがあります。

一方、農業サイドでは担い手や人手不足の解消につながり、農業経営の安定化、経営規模の拡大に役立っております。特に、これまでのコロナ禍では従来からの受託作業が減少している事業所もあり、施設外就労の場として農業が注目されています。また、人手不足に悩んでいる農業者、特に新規就農した若い経営者からは積極的に障害者を受け入れようとする動きも始まっています。

農福連携の取り組み内容は多種多様であり、取り組み数が増えるにつれて、取り組みパターンも多様化してきています。そのような状況下で、農福連携の取り組み主体等の違いにより、次の五つのパターンに区分されています。

- ❶ 福祉事業所が農業に参入する「福祉主体型」
- ❷ 農業者（法人含む）が障害者を雇用、または福祉事業所を別途立ち上げ併設する「農業主体型」
- ❸ 福祉事業所が作業請負の形で農業者を支援する「連携型」
- ❹ 企業が子会社を設置して農業分野で障害者を雇用する「企業出資型」
- ❺ 障害者の身体・精神状態を良くするために、病院、NPO 法人等で脳作業を行う「園芸療法型」

福祉主体型である「合同会社ど根性ファーム」と A 型事業所である「リンクスライブ笠岡」（両社とも同グループ）の取組事例

○経営の概要及び取組内容

- ❶ 約 4 ha の農地で業務加工用の青ネギを生産し、カットして販売している。職員は、生産部門・カット加工・販売部門で計 5 名、配色事業部門で 3 名である。
- ❷ カットネギ生産にかかる作業の一部は、リンクスライブ笠岡に作業委託しており、リンクスライブ笠岡の利用者 16 名（身体障害 1 名、知的障害 7 名、精神障害 8 名）と同事業所職員 5 名が作業に従事している。
- ❸ リンクスライブ笠岡の利用者（障害者）が農場内で行う作業には、除草、マルチングの補助、収穫作業などがある。
- ❹ カット加工部門では、梱包作業の標準化と効率化に向け、取引ロットを統べて 500g に統一しており、障害者でも作業可能な体制が整備されている。主な作業は、選別・外葉除去・洗浄・カット・計量・袋詰め等である。
- ❺ 販路は、地元ラーメン店やうどんチェーン店への納入、業務加工用原料としての販売（笠岡市・倉敷市）を確保している。

○「農福連携」の効果とポイント

- ❶ 通年栽培できる青ネギに力を入れ、障害者の就労機会を安定的に確保するとともに、6 次産業化により多様な部門での就労機会の提供も実現させている。
- ❷ A 型事業所職員は福祉分野の専門家であることから、利用者の障害特性に応じた業務分担や、適応力の向上を重視した作業環境整備が充実している。
- ❸ 収穫後の青ネギの選別、外葉除去の工程では、作業効率の観点から、機械を導入して立位で行うのが通例であるが、片麻痺の利用者の身体的な負担を考慮し、座位で手作業で行えるよう作業体制を見直すなどの工夫をしている。

④一般就労を見据えて、特定の作業の能力向上ではなく、難易度や環境の変化への適応力の向上を重視した指導や支援を行い、障害者のスキルアップも図っている。

⑤「ど根性ファーム」が、リンクスライブ笠岡利用者の一般就労の受け皿にもなっており、グループ内の連携を通じて、障害者が次のステップへと進む機会を得ている。

以上の説明を受けました。

④視察研修考察

笠岡湾干拓地では（1,811ha）（4Km×4）の広大な田畑の中にハウスや牛舎、豚舎が点在しています。ハウス等の設備はかなり大規模なものもあります。

本市においてもイチゴ農園事業を進めていく上で人材の確保は重要なポイントであり、ハウスが整備されたからといって農業従事者は集まってくるわけではありません。農業でしっかりと生計を立てていける「稼げる農業」への道筋を構築しながら、同時に、今回研修したような、福祉事業所との連携による農業の人材確保と障害者の就労機会の確保、つまり農業分野と福祉分野が Win・Win となるような取り組みも検討していく必要性を感じました。



(2) 葡萄浪漫館について 岡山県井原市

①視察地の選定理由

社会的背景として、食料自給率の低下や農業従事者の減少が課題となっています。藤岡市においても、農業従事者が減少するなかで、新規就農の支援などを実施していますが、大きな成果は出ていません。いちご団地の整備による、市の名産品の生産拡大に取り組むことで、地域活性、地域の魅力発信に繋げていくことが期待されるため、先進事例である岡山県井原市の葡萄の生産に関わる取り組みを参考にし、視察地として選定しました。

②市の概要

井原市は岡山県の西南部に位置し、西は広島県に接しています。中心市街は高梁川支流の小田川の流域の平野部に広がり、市の南は笠岡市に、北は標高 200～400 メートルの丘陵地帯で吉備高原へと続いています。地形的には井原市街地を除いては、ほとんどが山々に囲まれた農山村です。2005 年（平成 17 年）に合併した旧美星町が日本で初めて制定した条例である『光害防止条例』（1989 年 11 月 29 日制定）を引き継いだ「日本初の対光害専門条例を制定した市」としても知られます。

隣接する福山市とは生活圏・経済圏が一体化して福山都市圏を形成しており、古くから県境にとらわれることのない交流が盛んに行われています。また市街地（高屋）は福山市神辺町（上御領）にかけて連続し敷地が県境をまたがる商店や住宅が見られます。市域は吉備高原にまで及び、平成の大合併以前の市町域を基に井原・芳井・美星の 3 つの地域に分けられ、更に井原地域（旧井原市）は、井原・木之子・高屋の 3 つの地域に分かれ、芳井地域と美星地域を合わせて、5 つの地域で構成された市となっています。井原地域（旧井原市）および芳井地域の住民は、隣接する福山との結びつきが深い一方で、美星地域の住民はどちらかといえば倉敷志向であり、一体感の醸成が課題となっています。

予算規模（令和 5 年度）

一般会計 209 億円、特別会計 108 億円、企業会計 89 億円（合計 407 億円）

③視察研修内容

葡萄浪漫館では、葡萄の販売だけでなく、加工場では餅や漬物、パンの製作を行っており、中でもパンは人気ですぐ売り切れます。また、デイキャンプのスペースも整備しており、リピーターも多く、令和 3 年度と比較すると、令和 4 年度は来場者数や売上げが伸びています。外国人の来場者数は少ないものの、中国人やベトナム人が日常的な買物として当施設を訪れます。最盛期は 7-9 月となり、令和 4 年度より屋外常設テントを整備し、人の密集を防いでいます。葡萄のほかにもジビエの販売、神楽やコンサートイベントを行い、閑散期には若い人たちが当施設敷地を活用して企画するイベントにより知名度は上がっています。

更に 2019 年から音楽フェス Hoshioto を実施し、当施設にあるグラウンドを活用、客単価としては減少しているものの、若年層の増加が見られます。

生産者は JA 葡萄部会 194 件、青野部会 90 件ほどですが、全員が葡萄浪漫館での販売に登録しているわけではありません。30 年前は 120 件でしたが、専業はほとんどおらず、サラリーマンをやりながらの兼業でした。葡萄浪漫館自体は国庫補助金による整備ですが、元々は意欲ある生産者が運営協議会を立ち上げ、自分たちで直売所を作り、自分たちの葡萄を自分たちで売ろうとしていたところをあとから行政がサポートに入りました。他の地域では直売所と JA が対立している話を聞きますが、井原市では良好な関係を築いており、自立する農家を支援することが JA の仕事という考えです。人材確保については、国や県の制度があり、専業農家の後継では、市独自の年間 120 万円の補助が平成 30 年度からスタートし、2 名がその補助制度を利用しています。生産に必要な棚などの資材については、県が補助しており、岡山県としての補助が手厚くなっています。

意見交換の場に同席した井原市の葡萄農家の市川さんは群馬県南牧村生まれ、藤岡工業高校が母校です。葡萄農家としては 28 年前からですが、当時は新規就農を受け入れている場所が少なく、岡山県では補助制度もあり新規就農がやりやすく、現在も、葡萄浪漫館があることで、新たなに就農しやすくなっています。今後の課題としては、ひとりで栽培すると栽培できる面積に限りがあるため、いかに高く販売していくかが重要となります。

以上の説明を受けました。

④視察研修考察

20、30 年前には新規就農の受け入れや補助制度が充実している自治体は多くはなかったと思いますが、現在は新規就農を呼び込む自治体は増えているように感じます。そのため、各自治体の特色および稼げる農業の見込があるかが鍵となります。実際にどれくらいの初期投資および収入が見込めるかをモデルケースとしてしっかりと提示していくことが新規就農者を呼び込むためには必要となるかと思います。

また、若年層をターゲットとしたフェスにおいては、閑散期の公共空間の活用が重要であると改めて感じました。例えば、市内の公共空間である、ふじの咲く丘や桜山公園などは花の時期以外は、地域住民による散策などの利用はあるものの、人のにぎわいは少なくなるため、民間団体のイベントスペースとして活用していくことが望ましいと思います。



(3) 尾道ブランド認証制度について 広島県尾道市

①視察地の選定理由

藤岡市の重点事業として農園団地事業があります。県内一の出荷量を誇るいちご「やよい姫」の生産者と収穫量を確保するために農園団地の整備を進め「ブランド化」「担い手の育成」「交流人口の拡大」を実現するモデル拠点を目指しています。

尾道市が進める「尾道市農業振興ビジョン」の施策の一つである「地域特産物の産地化と尾道ブランドの発信」は尾道市の農産物の認知度向上により需要の拡大につながり、作付面積の拡大、生産者の増加も達成していることから、藤岡市の参考にするべく視察地として選定しました。

②尾道市の概要

尾道市は山陽地方の中南部、岡山市と広島市のほぼ中間に位置しています。瀬戸内海に面し、古くから海運による物流の集散地として繁栄してきました。明治時代に山陽鉄道が開通して鉄道と海運の接点になったことで、広島県東部（備後地方）で最大の人口を抱える都市となりましたが、1960年代半ばには福山市に中心地の座を明け渡しました。ただし、現在も備後都市圏の有力都市の一つとなっています。1999年5月の瀬戸内しまなみ海道開通によって四国の今治市と陸路で結ばれ、物流面での利便性が高まり、2015年3月には中国横断自動車道（尾道松江線）が全線開通し、「瀬戸内の十字路」と呼ばれることもあります。

山間地域から沿岸地域、多くの島により、地域性豊かな農産物が多く栽培されている、わけぎ、いちじく、レモン、ネーブルオレンジは全国1位の生産量を誇り、もも、ぶどう（デラウェア）、八朔、デコポン、みかん、串柿、スイカ、葉たばこ、きぬさやえんどうなどの生産は県内1位です。

市内中心部は概ね東西の国道2号、南北の国道184号及び長江通りと栗原本通りに沿って形成されています。尾道駅東側は国道2号に平行して古くからの商店などが立ち並び、この地域は北側の山と南側の海に挟まれているため、平地が少なく山肌に住宅や神社仏閣が密集しています。このため、道路も狭隘で傾斜するものが多く、「坂の街」と言われる所以です。また、旧来より北前船が寄港するなど港町、商都として栄えてきました。戦前までは広島市に匹敵する程の経済力を持っていたといわれ、りそな銀行、三井物産など、多数の銀行の本店や企業の支店なども存在していました。水運に恵まれている立地から、古くから尾道、向島、因島に造船所があり、商都のみならず工業都市の一面も持ち、特に因島は造船景気で栄えていました。近年は造船業の斜陽化により衰退の一途を辿りつつも、「瀬戸内の十字路」として交通条件の良さを利用し、工業団地の造成により他産業の誘致を進めています。

予算規模（令和 5 年度）

一般会計 591 億円、特別会計 345 億円、企業会計 256 億円（合計 1,194 億円）

③視察研修内容

尾道ブランド農産物認証制度

尾道ブランド農産物認証制度は、尾道市が推進している農産物の認証制度です。

【開始時期】 平成 20 年にスタートし、平成 30 年に新たに策定された「尾道市農業振興ビジョン」の一環として展開されました。

【目的】 「農を育てる」施策の一環として、地域特産物の産地化と尾道ブランドの発信を促進することを目指しています。

【認証対象】 尾道市農業協同組合または三原農業協同組合せとだ柑橘事業本部が集荷・販売する農産物の内、安全・安心が確認できる品目であることなどについて委員会で認証された農産物です。

【認証品目】 令和 3 年までに認証された品目には、いちじく、トマト、桃、スナップエンドウ、ぶどう、わけぎ、はっさくなどが含まれています。

【認証の利点】 認証を受けた団体は、「尾道ブランド農産物認証マーク」の使用許可の他、出荷資材購入や新規栽培者確保のための講習会開催費用などの経費補助を受けることができます。

尾道市の農産物を支えるこの制度は、消費者に認知されることで需要量の拡大や作付面積の拡大、作付者の増加を目指しています。

尾道ブランド農産物

尾道市農業協同組合または三原農業協同組合せとだ柑橘事業本部が集荷・販売する農産物の内、安全・安心が確認出来る品目であることなどについて委員会で認証された農産物です。

令和 3 年までの認証品目、団体

平成 27 年度：	いちじく	JA 尾道市いちじく部会
平成 28 年度：	トマト、桃	JA 尾道市トマト部会
平成 30 年度：	スナップエンドウ	JA 尾道市キヌサヤエンドウ部会
令和元年度：	ぶどう	JA 尾道市ぶどう部会
令和 2 年度：	わけぎ	JA 尾道市わけぎ部会
令和 3 年度：	はっさく	JA 尾道市因島柑橘部会

認証を受けた団体には、「尾道ブランド農産物認証マーク」の使用許可の他、「尾道ブランド発展支援事業」として、出荷資材購入や新規栽培者確保のための講習会開催費用などの経費補助を実施しています。

今後の課題について

平成27年度から事業を開始し、着実に認証件数が増加しています。しかしながら、継続的に農業協同組合と協議していますが現時点で新たに認証する品目がないのが現状です。その理由として、現時点で十分認知がされているものや、市場関係者などは出荷荷姿が変わることで、どこの産地かわからないなどの懸念から、制度を利用しないとの声もあります。以下の項目を意識し、今後も継続的に農業協同組合と協議し農産物の品目を増やしていけるよう取り組みながら、事業を活性化していく必要があります。

以上の説明を受けました。

④視察研修考察

尾道ブランド農産物認証制度は、尾道市が推進している農産物の認証制度であり、地域特産物の産地化と尾道ブランドの発信を促進しています。藤岡市も農園団地事業を進めており、「やよい姫」のブランド化、販路拡大、産地強化を目指しておりますが、

- ・農産物の生産者や関連団体との協力体制の構築
- ・安全性や品質、地域性などを考慮した認証基準の設定
- ・認知度向上を目的とした広報活動やマーケティング戦略展開（イベントの実施等）

を検討しながら段階的に事業を進めていく必要を感じました。



以上の通り報告致します。

令和 6 年 3 月 29 日

経済建設常任委員会

委員長 針谷 賢一

副委員長 中山 晴親

委員 栗原 大輔

松田 拓也

内田裕美子

野口 靖